2027 年 3 月期 第 2 四半期 Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時 ： 2026 年 10 月 29 日（金） 12:00 ～ 12:55

出席者 ： 代表取締役 社長執行役員 井上 智弘

執行役員 経営企画副本部長 片山 義理

＜電子先端材料｜多結晶シリコンの販売数量・需給＞

Q: 多結晶シリコンの通期販売数量について、前回予想からの変化は。需給環境をどう見ているか。

A: 通期販売数量は**前年度並み**を見込む。当初はもう少し強い需要を想定していたが、現在は「踊り場」。 半導体の下流では動きが出ているものの、現時点ではポリシリコン全体の需要増には十分結びついていない。このため、FY26 は前年比ほぼ横ばいの前提。

＜電子先端材料｜窒化アルミの稼働・増産＞

Q: 窒化アルミは好調だが、現在の稼働状況と増産余地は。

A: 現在は**ほぼ 100%、フル生産**。引き合いは強いものの、現有設備での追加増産余力は限定的。そのため、粉末・顆粒の能力増強投資を決定し、現在遂行中。

＜セメント｜国内販売事業譲渡の業績影響＞

Q:下期から OEM 販売へ移行することによる利益影響は。

A: OEM 販売への移行により、営業利益には**約 20 億円のマイナス影響**。一方、他の改善要因で打ち返し、セグメント業績予想は据え置いている。

＜化成品｜上期→下期の利益改善要因＞

Q: 下期の売上・利益改善を、価格改定、稼働率、一過性要因などに分けるとどうなるか。

A: 主な改善要因は以下。改善計画はチャレンジングではあるものの、手が届かない数字ではない。

8 月に打ち出した価格改定の浸透

本格寄与は 10 月以降を想定。

苛性ソーダ等の価格改善

数量増加と価格改定の双方が寄与。

工場稼働率の改善

1Q は原料数量の不安定さから稼働率を落としていた。

下期は稼働正常化による固定費負担改善を見込む。

製造コスト改善

＜ライフサイエンス｜下期増益要因＞

Q: 上期から下期に利益が改善する要因は。プラスチックレンズ以外では何が寄与するか。

A: 歯科材料は堅調だが、上期から下期で大きく伸びる想定ではない。主な改善ドライバーは**診断事業**。A&T では、**システム更新案件が下期に増加する見込み**。トクヤマライフサイエンスグループでは、中国の集中購買制度によるマイナス影響が一巡。中国向け IVD 関連材料の伸長を見込む。診断関連を中心に**約 15 億円程度のプラス要因**を想定。

以上